日本総研 リサーチ・アイ
The Japan Research Institute, Limited

No.2008-041
2008年12月26日
http://www.jri.co.jp

鉱工業生産が示唆する2期連続二桁マイナス成長の可能性

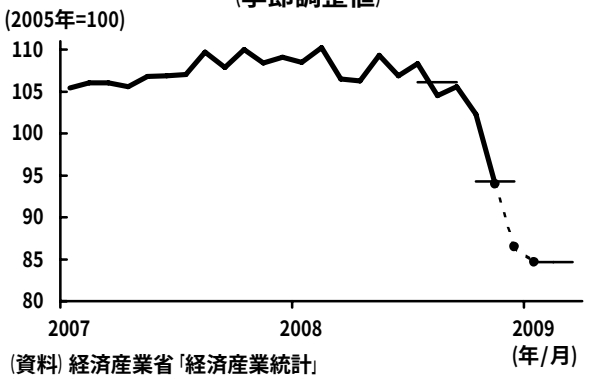
（１）11月の鉱工業生産は前月比▲8.1%と、統計開始以来最大の落ち込み（図表１）。輸出の急減を主因に生産調整が急速に進行したことが背景（図表２）。さらに、生産予測指数は12月に同▲8.0%、１月に同▲2.1%と、先行きも大幅減少に歯止めがかからない見通し。

（２）製造業セクターはＧＤＰの約２割を占めるだけでなく、非製造業の生産活動も誘発するため、鉱工業生産の急減はわが国景気に大きなマイナス影響。実際、鉱工業生産と実質ＧＤＰには強い相関関係（図表３）。具体的には、鉱工業生産が▲１%減少すると、実質ＧＤＰが▲0.3%程度減少。

（３）四半期ベースでみれば、鉱工業生産は10～12月期に前年同期比▲14.0%、１～３月期に同▲22.2%の見込み（２～３月は横ばいと仮定）。上述の関係に基づけば、鉱工業生産の減少は、10～12月期にＧＤＰが前年同期比▲4.6%、１～３月期に同▲7.3%になることを示唆。これは、前期比に変換すると、10～12月が▲3.7%（年率▲14.1%）、１～３月期が▲2.4%（年率▲9.1%）となる大幅な落ち込み。この場合、新年度への成長率のゲタは▲3.6%となり、2009年度は戦後最大のマイナス成長に。

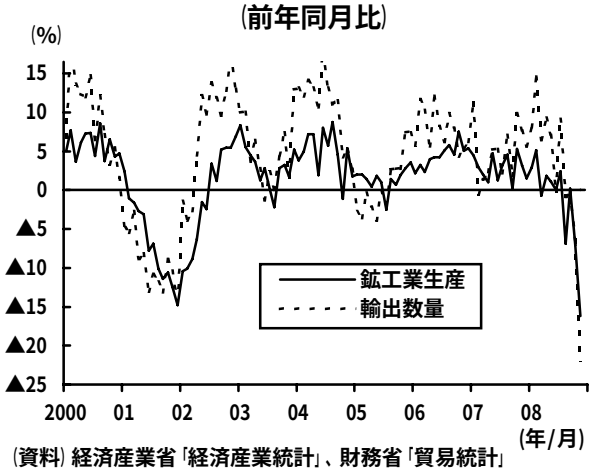
（４）さらに、生産計画からの下振れ幅が拡大しているため、12月以降の生産計画についても、一段の下振れリスク（図表４）。以上を勘案すれば、実質GDPは、10～12月期、１～３月期に、２四半期連続の年率二桁マイナス成長の可能性も。

(図表1) 鉱工業生産の推移
(季節調整値)



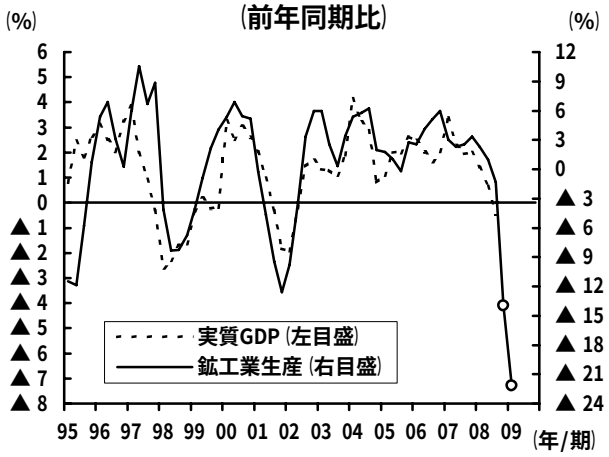
(資料) 経済産業省「経済産業統計」
(注1) 点線は2008年12月～2009年1月の生産計画。
(注2) 横線は四半期平均値。

(図表2) 鉱工業生産と輸出数量
(前年同月比)



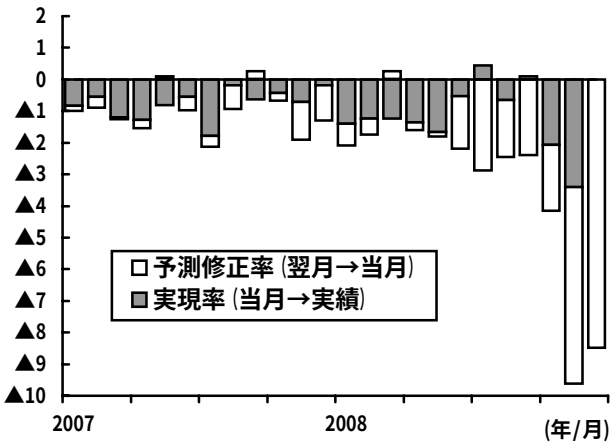
(資料) 経済産業省「経済産業統計」、財務省「貿易統計」

(図表3) 鉱工業生産と実質GDPの関係
(前年同期比)



(資料) 経済産業省「経済産業統計」、内閣府「国民経済計算」
(注) ○は10-12月期、1-3月期の見込値。

(図表4) 生産計画からの修正率



(資料) 経済産業省「経済産業統計」

《ご照会先》日本総合研究所・調査部　研究員　村瀬拓人（report@jri.co.jp、03-3288-4085）